



INACHO ROTARY WEEKLY NEWS

事務所：長野県伊那市西町 5016-2 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158
 会長：中川博夫 副会長：唐澤千明 幹事：池上幸平



2015-2016 国際ロータリーのテーマ
世界へのプレゼントになろう
 Be a gift to the world

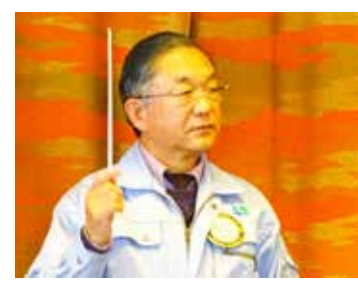
2015-2016 RI会長
 K.R.“ラビ”ラビンドラン
 スリランカ



第1339回 例会 平成28年1月19日(火)

■ 点 鐘 12:30

■ ソング 真実を求めて 池田幸平ソングリーダー



■ 会長談話 中川博夫会長



先日、BSで保科正之公を紹介する番組がありました。民衆のことを第一に考える「義」の人として取り上げられており、知恵者「老中松平伊豆守信綱」や戦国時代を引きずる幕閣との対立、明暦の大火後の伊豆の守との協同による江戸のまちづくり、NHK大河ドラマとして十分鑑賞に堪えると思えました。

華々しい戦闘はないのですが、徳川幕府発展の転換点として、常に控えめな態度を取りながらも自分の信念を貫き通し、義・仁・誠に生きた逸話は多くの人の共感を呼ぶと思います。出自や高遠藩から会津藩への国替えとその後は、兼子会員に任せるとし、「明暦の大火」の際の正之公に絞って話をします。

明暦の大火は4代将軍家綱の時、1657年1月18～19日に渡り、江戸の町の6割を焼き尽くし、10万人以上の焼死者を出し、江戸城天守閣が焼け落ちるほどの大火だったのですが、正之公は自分の屋敷のことは後回しにし、火事装束姿で江戸城に詰め、将軍の身を守りました。会津藩家訓15条をこの時点で実践しています。

幕府天領からの年貢米100万俵以上を保管する隅田川沿いの米倉に火がついたとの報が入ると、「飢えたものは、火を消して米倉から米を持ち出せ。持ち出した米を取るのは勝手次第」と触れ回らせました。すると、避難民たちが火消しに転じ、また持ち出された蔵米が救助米となるという一石二鳥の策になりました。

鎮火後は、難民救済に奔走し、後に回向院となる死者を葬る万人塚の建立、閣老たちから、幕府の御金蔵が空になってしまうという声を押し切り、「官庫のたくわえと申すものは、すべてかようなおりに下々へほどこし、士民を安堵させるためにこそある」と説き、家を失った者に再建費として総額16万両を与えるなどしました。

このことは、会津藩時代に、豊作の時は、年貢米とは別に米を7千俵ほど買い上げて「社倉」にも通じます。これは飢饉の時に民を飢餓から救うための備蓄であり、火事で焼け出されたものや、領外からきた農民、新田を開発した農民にも、社倉米を分け与えました。この通達が各村に伝わると、農民たちは喜びのあまり、それまで藩に隠していた田畑を次々と申告し、その年貢も納められるようになって、逆に3千石以上の増収となり、「ひたむきな心で接すれば、領民たちも心を開いてくれるものだな」と正之は感じ入ったそうです。

大火後、正之公は江戸の再建にあたって、江戸防衛の為に隅田川にかかる橋は一つだけだったのを千住大橋以外に両国橋を作る、主要道路の道幅を6間(10.9m)から9間(18.2m)に広げ、火除け空き地として上野広小路を設置、芝・浅草両新堀の開削、神田川の拡張などに取り組みました。江戸という当時、世界最大の都市の輪郭は、実にこの時に定まったといえます。江戸城の天守閣再建の提案が持ち上がった時には、豊臣家の大坂城を見ても天守閣が戦さのうちに役だった験しはなく、「今は、かような儀に国家の財を費やすべき時にあらず」と反対し、江戸城の天守閣はついに再建されることはありませんでした。天守閣なき江戸城は平和の象徴であり、文化創造と庶民台頭の基礎を築いたのが、正之公の仁政であったといえます。

■ ニコニコボックス

- ◆中川博夫 大雪でてんてこ舞いです。
- ◆池上幸平 雪が降りましたネ〜!喜んでいるのは子供と犬と池田さんの会社だけですかネ。足元に気をつけて下さい。
- ◆松田靖宏 急に寒くなりました。体調を崩さない様お気を付け下さい。
- ◆田中洋 今年もよろしく願い致します。皆様の健康と、世界がちょっとでも平和な一年になりますように。
- ◆唐澤千明 本格的な冬到来です。本年もよろしく願いします。
- ◆清水吉治 今年もフルートアンサンブルのコンサートを開くことになりました。伊那谷において最大のグループです。チラシをお配りしてありますので今年も宜しく願いします。

■ 幹事報告

池上幸平幹事 幹事報告は別紙をご覧ください。

■ 委員会報告

・1/16(土)~17(日) 第2600地区IAと交換留学生との合同研修会の報告 矢野昌史 地区インターアクト委員



平成28年1月16日(土)17日(日) 会場・宿泊 飯山市 民宿たんぼ荘
研修会は学校ごとに100%英語で自己紹介と学校紹介をして、留学生は日本語で母国の紹介をしました。懇親会ではギター演奏や、伊那西インターアクトクラブは手話で歌を唄いアンコールも有り大変に盛り上がりました。
2日目は飯山の雪のたんぼで雪合戦などを行い、小布施の北斎館、長野Mウェーブを見学してから、午後3時頃にそれぞれに解散しました。

■ 出席報告

会員数37名 出席免除会員7名 長欠会員2名 本日出席者20名 事前メイク3名
出席率71.88% 前回出席率 修正なし

■ クラブフォーラム

「職業奉仕委員会」 矢島宏 職業・社会奉仕委員長



今年度の第2600地区重点目標のひとつに「職業奉仕の具現化」が挙げられています。今日はその第一段階として小川会員に「ナイチンゲールと職業奉仕」のお話をさせていただきました。今後は会員の皆さんに出前講座をお願いする事が多くなると思いますが、よろしくお願い致します。

『ナイチンゲールと職業奉仕』 卓話者 小川秋實会員



職業奉仕に関わる話題として、近代看護の生みの親であるフローレンス・ナイチンゲールのことを紹介します。

フローレンス・ナイチンゲールはイギリスの上流階級の出身で、父からギリシャ語、ラテン語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、歴史、哲学、数学等の教育を受けました。17歳のとき、神の声を聞き、病院で病気や怪我の人の世話をすると決意しました。当時のヨーロッパでは看護は、カトリックのシスターたちが病人の身の回りの世話をしていたもので、貴婦人のする仕事ではありません。それでも、ナイチンゲールはドイツの看護

学校で看護理論を学んだうえ、イギリスの病院で看護に従事しました。やがて、ロシアと、トルコ・イギリス・フランス連合軍との間で戦争（クリミア戦争）が起これ、多数の戦傷者が出たことが報道されました。軍務大臣はナイチンゲールに戦病者・戦傷者の看護を依頼、ナイチンゲールはシスターなど計38名を率いて戦地に向かいました。

戦傷者を収容していた仮設病院は、悪臭が立ち込め、血膿で汚れ、ネズミとシラミがはびこり、物資も不足していました。治療は、弾が当たれば切断手術、それも麻酔がない時代だったので、患者が暴れるようなら銃の台尻で後頭部を叩くという乱暴なものでした。このような病院だったので、患者の死亡率は40%にも達していました。ところが、軍医長官は、縦割り行政を楯にナイチンゲールらの従軍を拒否しました。ナイチンゲールらは、病院の便所掃除がどの部署の管轄にもなっていないことに目をつけ、まず便所掃除を始めることによって病院内へ入り込みました。次に、管轄が曖昧で人手がなかった衣類の洗濯をしました。これが認められ、患者の看護ができるようになりました。患者の衛生状態が改善するにつれ、患者の死亡率が下がり、6か月後には死亡率2%にまでなりました。

ナイチンゲールの功績で特筆すべきことは、まず、消毒ということが知られていなかった時代に、患者の衛生状態をよくするだけで死亡率を激減させたこと。これは消毒法や抗菌薬がある現在でも通用することです。次に、統計グラフを用いて衛生環境の改善が大切だということを軍の上層部に理解させたこと。ナイチンゲールはこの統計手法の考案者として後に英国統計学会の会員になり、米国統計学会の名誉会員にもなっています。さらに、帰国後、病院管理の著書と史上初の看護についての専門書を出し、近代的看護専門学校を設立しました。病人を救うのは宗教者の愛よりも衛生環境であるとして、近代的な看護理論と病院の衛生管理に多大な貢献をしました。ナイチンゲールが考案した病室は、間仕切りのない講堂のような大きな部屋で、壁沿いに各窓に対してベッドが置かれています。ナースコールや湯水の出る手洗いの設置も彼女の考案です。

他方、ナイチンゲールは、看護という仕事は、自己犠牲によるものではなく、社会的に自立し、責任を伴った職業で、提供したサービスに見合う報酬を得るべきだと主張しました。自己犠牲のみに頼り、経済的援助なしの活動は決して長続きしないと信じていたので、「赤十字社」の設立には反対しています。赤十字社は、寄付金とボランティアで支える奉仕団体です。ちなみに、ボランティアは、自発的な意思によって、原則として報酬なしに、労働力、技術、知識を提供して社会に貢献することです。ただし、最近の考え方では、交通費などの実費や僅かな報酬を貰うことは許されています。

ロータリーは奉仕団体で、第1モットーは「超我の奉仕」です。日本のロータリアンには、超我の奉仕とは、本来何の代償も報酬も求めないものという誤解をしている人もいますが、正しくは、自己を犠牲にして他人にサービスすることではなく、自らをさておいて他にサービスしようということで、米山梅吉翁は、「サービス第一、自己第二」と訳しています。提供したサービスに自ずと報酬が付いてくるということです。ロータリーの職業奉仕は、「自分の職業を活かして他人に奉仕する」ことです。そのさいに、ボランティアとして奉仕をしてもよいし、あるいは、提供したサービスに見合う報酬を貰ってもよいということだと思えます。

■ 点 鐘

13:30

次回例会

11月26日(火) 点鐘 12:30 場所 海老屋料理店
会員卓話